給与支払報告書（個人別明細書）の記入について

今治市

《記入例》

⑦ 給与支払報告書（個人別明細書）

※		※種別	※整理番号	※

支払を受ける者	※区分		（受給者番号）
	住所	今治市別宮町一丁目4番地1 ①	（個人番号）
			（役職名）
			氏名 （フリガナ）イマバリ タロウ　今治　太郎

種別	支払金額	給与所得控除後の金額（調整控除後）	所得控除の額の合計額	源泉徴収税額
給料・賞与	5,000,000円	3,560,000円	3,170,000円	0円

（源泉）控除対象配偶者の有無等		老人	配偶者（特別）控除の額	控除対象扶養親族の数（配偶者を除く。）			16歳未満扶養親族の数	障害者の数（本人を除く。）		非居住者である親族の数
				特定	老人	その他		特別	その他	
有	従有									
ア			イ 310,000円	1人	1人	人	ウ 1人	1人	人	エ 人

社会保険料等の金額	生命保険料の控除額	地震保険料の控除額	住宅借入金等特別控除の額
750,000円	105,000円	15,000円	19,500円

（摘要）
③
前職：（株）○○　1,500,000　（社保）98,000　（源泉）9,800
普通徴収　C（令和７年３月31日退職予定）
源泉徴収時所得税減税控除済額 0円、控除外額 120,000円

生命保険料の金額の内訳	新生命保険料の金額	旧生命保険料の金額	介護医療保険料の金額	新個人年金保険料の金額	旧個人年金保険料の金額
	85,000円	30,000円	15,000円	25,000円	120,000円

住宅借入金等特別控除の額の内訳								
住宅借入金等特別控除適用数	1	居住開始年月日（１回目）	H28年	7月	1日	住宅借入金等特別控除区分（１回目）	住（特）	住宅借入金等年末残高（１回目）	8,000,000円
住宅借入金等特別控除可能額	80,000円	居住開始年月日（２回目）	年	月	日	住宅借入金等特別控除区分（２回目）		住宅借入金等年末残高（２回目）	円

④

源泉・特別控除対象配偶者	（フリガナ）イマハリ ハナコ	区分	配偶者の合計所得	国民年金保険料等の金額	旧長期損害保険料の金額
	氏名 今治　花子		⑥ 1,030,000円	55,000円	20,000円
	個人番号 2345 6789 0123			基礎控除の額 円	所得金額調整控除額 ⑦ 円

控除対象扶養親族			16歳未満の扶養親族			5人目以降の控除対象扶養親族の個人番号
1	（フリガナ）イマハリ イチロウ	区分	1	（フリガナ）イマハリ ハルコ	区分	
	氏名 今治　一郎			氏名 今治　春子		
	個人番号 4567 8901 2345			個人番号 7890 1234 5678		
2	（フリガナ）イマハリ ヨシコ	区分	2	（フリガナ）	区分	
	氏名 今治　美子			氏名		
	個人番号 5678 9012 3456			個人番号		
3	（フリガナ）	区分	3	（フリガナ）	区分	5人目以降の16歳未満の扶養親族の個人番号
	氏名			氏名		
	個人番号			個人番号		
4	（フリガナ）	区分	4	（フリガナ）	区分	
	氏名			氏名		
	個人番号			個人番号		

⑧

未成年者	外国人	死亡退職	災害者	乙欄	本人が障害者 特別	本人が障害者 その他	寡婦	ひとり親	勤労学生
			⑨						

⑩ 中途就・退職

就職	退職	年	月	日

⑪ 受給者生年月日

元号	年	月	日

支払者		
	個人番号又は法人番号	（右詰で記載してください）
	住所（居所）又は所在地	
	氏名又は名称	（電話）

（摘要）に前職分の加算額、支払者等を記入してください。

※給与支払報告書（個人別明細書）は受給者１人につき１枚提出してください。

給与支払報告書（個人別明細書）記入要領（項目番号は記入例中の番号に対応しています。）

今治市

◎留意点

令和６年中に給与の支払があった場合は、雇用形態、金額の多少に関わらず、全て給与支払報告書（個人別明細書）を作成し、提出してください。

※事業専従者、令和６年中の退職者及びパート・アルバイト等の方についても同様に作成のうえ提出してください。

また、本人及び扶養親族の**個人番号（マイナンバー）を必ずご記入ください。**

①**令和７年１月１日現在（退職者は退職日時点）**の住所を記入。

※個人番号は必ず記入し、氏名は正確に、**必ずフリガナをつけてください。**

②（源泉）控除対象配偶者、配偶者（特別）控除の額、扶養親族数、障害者人数等

ア　控除対象配偶者がいる場合は「有」に○を記入。

イ　配偶者（特別）控除を受ける場合は、控除額を記入。受ける方の合計所得金額によって配偶者（特別）控除の額は変わります。

ウ　16歳未満扶養親族の人数を記入。

エ　（源泉）控除対象配偶者、控除対象配偶者、配偶者特別控除の対象となる配偶者、控除対象扶養親族及び16歳未満扶養親族のうち、国内に住所を有しない方がいる場合に、その人数を記入。

③摘要欄・・・該当する点について漏れなく記入。

ア　**同一生計配偶者（控除対象配偶者を除く。）を有する方で、その同一生計配偶者が障害者、特別障害者又は同居特別障害者に該当する場合は、同一生計配偶者の氏名及び同一生計配偶者である旨を記入。**

（例「氏名（同配）」）

イ　**中途就職者について前職分給与を含んで年末調整をした場合は、前勤務先の名称・給与額・社会保険料・源泉徴収税額は必ず記入。**

ウ　**普通徴収への切替依頼書内の理由により特別徴収できない場合は、「普通徴収」と該当する理由の「略号（A～D）」を記入。**

エ　留学生など、外国との租税条約に該当する方は、「○○**条約**○**条該当**」と記入。

オ　海外転勤等で今治市に居住していない方は、出国先および出国予定期間を記入。**※合わせて「海外赴任証明書」をご提出ください。**

カ　退職手当等の支払を受ける配偶者又は扶養親族がいる場合は、その方の氏名、配偶者又は扶養親族である場合にはその旨、生年月日、住所、障害者又は特別障害者である場合にはその旨、国外に居住する非居住者である場合にはその旨及びその方の合計所得金額の見積額（退職所得分を除く）並びに納税者が寡婦又はひとり親である場合にはその旨を記入。氏名の前には（退）と記入。

キ　**年末調整定額減税控除額の適用がある場合には、源泉徴収時所得税減税控除済額（控除された額）、控除外額（控除しきれなかった額、ない場合には０円）を記入し、非控除対象配偶者減税の有の場合はその旨を記入。**

※非控除対象配偶者とは、同一生計配偶者（控除対象配偶者を除く。）をいいます。

④生命保険料・旧長期損害保険料等の支払額を記入。（生命保険料の種別等により控除額の計算方法が異なりますので、該当する保険種別を確認のうえ、必ず記入。）

⑤住宅借入金等特別控除の適用を受けた方は、「**居住開始年月日（和暦）**」「**住宅借入金等特別控除区分**（「**住**」・「**認**」・「**増**」・「**震**」）」「**住宅借入金等年末残高**」「**住宅借入金等特別控除可能額**」を記入。また、税務署長が発行した「年末調整のための（特定増改築等）住宅借入金等特別控除証明書」の居住開始年月日の欄に「(特定)」の記載がある場合には、「(**特**)」を、「(特別特定)」の場合には、「(**特特**)」と、「(特例特別特例)」の場合には、「(**特特特**)」と、その後ろに記入。

（例：住（**特**）、認（**特特**）、住（**特特特**））

⑥配偶者の合計所得金額（見積額）を記入。

⑦所得金額調整控除の適用がある場合には所得金額調整控除の額を記入。

⑧「（源泉・特別）控除対象配偶者」、「控除対象扶養親族」「16歳未満の扶養親族」

ア　対象とする方の氏名（フリガナ）、**個人番号を必ず記入。**

イ　国外に居住している方が配偶者である場合には、区分の欄に「○」を記入し、扶養親族である場合には、非居住者の区分ごとに01～04を記入。

⑨該当する項目に○を記入。

⑩令和６年中に中途就職または退職された場合は、いずれかの欄に○印をつけ、その年月日を記入。

※同一年に就職・退職した場合は退職年月日を記入。

⑪受給者の生年月日（元号については漢字（「大正」、「昭和」、「平成」又は「令和」））を記入。